第１９回 統計品質改善会議 議事概要

○ 日　　時：令和７年９月 26 日（金）15:30～
○ 場　　所：中央合同庁舎２号館　１４階 情報政策本部会議室ＡＢ
○ 議事概要：以下のとおり

【資料の説明】
以下の各議事に関する資料を事務局が説明
議事１　「国土交通省統計改革プラン」の改定（素案）について
議事２　建設工事統計調査の見直し

【構成員からの主なご発言】

＜議事１：「国土交通省統計改革プラン」の改定（素案）について＞
（構成員）
○　資料１－２に「不適切処理事案への当面の対処を概ね実施」とあるが、「概ね」を記載している趣旨は何か。
（事務局）
○　令和４年８月に遡及改定を行い、その後、人員体制の強化や建設受注統計のシステム化等を実施してきているが、「実施」にはある程度の幅を含む場合があるので、「概ね」と書いている。

（構成員）
○　他に意見はないものと認める。今後、現時点の素案に修正が加わる可能性があるが、統計品質改善会議としては、本日、提示された第Ⅱ期「国土交通省統計改革プラン」（素案）を了承する。

＜議事２：建設工事統計調査の見直し＞
（構成員）
○　資料２の４ページ目に「財務諸表の多くは紙で保管されているため」と記載されているが、財務諸表以外の経営審査事項はデジタルで入手なのか。
（事務局）
○　「経営審査事項」は電子申請でも提出可能となっている一方、「財務諸表」はほぼ紙による提出である。

（構成員）

○　財務諸表における財務データは、施工統計の調査項目として本当に必要なのだろうか。建設業界の経営状況（付加価値額、原価）を把握したいのであれば、施工統計として財務データを入手しなくても、法人企業統計により建設業部門の年次と四半期の財務状況は分かる。つまり、財務状況に関する概況の把握で十分であれば、法人企業統計の項目から移行するか、置き換えることで良いのではないか。

（構成員）

○　資料の趣旨は、財務データの入手というよりは、完成工事高を財務諸表から入手できるのではないかとの提案と理解している。質問だが、財務諸表を電子データで提出している業者もいるのか。

（事務局）

○　財務諸表は、ほとんどが紙の状態だと思っていただきたい。この関連で、紙の財務諸表が「33 万業者」の意図は、建設業の許可事業者 48 万業者のうち、13 万業者は経営審査事項により情報が分かるので、その残りが 33 万業者となる。

（構成員）

○　経済産業省の企業活動基本調査は、当初、財務データも調査項目としていたが、数年後に主要な財務データは法人企業統計から移管することになり、それらを調査しなくなった。利用状況にもよると思うが、施工統計調査も同様の置き換えをできるように思うが、如何か。

（事務局）

○　目的は、「完成工事高」を業種別のほか、建築や土木の別に分けて入手したいことである。また、最近の建設業者には兼業も多いので、建設業分だけの売上げや原価（材料費、労務費）を切り分けて把握したい。

（構成員）

○　それらは、どこでどういう利用ニーズがあるのか。

（事務局）

○　現状の施工統計調査では、小規模の企業の層は標本からの推計値であるなど、十分な分析に必ずしも十分ではない場合がある。しかし、悉皆的な数字を入手できれば、業種分析や県別分析、企業ランキング等の分析までが可能になり得る。現実的には、経営審査事項の対象となる 13 万業者以外の業者のデータを十分に入手できていないのが実態である。

（構成員）

○　下請け企業の実態は、建設業構造実態調査によりかなり詳細を把握できていたのではないか。

（事務局）

○　当該調査も標本調査であり、得られるサンプルは多くはない。

（構成員）

○　将来的に財務諸表がほとんどデジタルで提出されるようになったら、そのように考えれば良い。しかし、紙の資料を全部デジタルに変換する作業には相当コストがかかり、また、そこまで行う必要あるのかという気もする。財務データは本当に全数必要なのだろうか。将来的にはデジタルの提出になると思うが、当面は、集まった紙の財務諸表をサンプリングして集計しても良いのではないか。

（構成員）

○　今の提案は、調査対象企業を対象にサンプリングを行うのではなく、紙の財務諸表をサンプリングするという考え方であり、検討の価値があると思う。

（事務局）

○　紙の財務諸表のサンプリングの場合に、建設業 29 業種別の分析等を行う際に問題なく扱うことができるのだろうか。

（構成員）

○　財務諸表でサンプリングすれば回収率が 100%となり、サンプリング上の偏りがないと言える。他方、現状の調査設計（業者をサンプリング）では、回答者と非回答者の間で偏りが発生している可能性があり、その分の信頼性が低くなる。このため、前者のサンプリングの方がより精度が高くなると思う。

（構成員）

○　紙の財務諸表をどの程度正確に電子化できるかも課題ではないか。紙の財務諸表が元々電子ファイルで作成されていて、読み取りの精度が高いのであれば、価値のあるデータとなる。紙の財務諸表は手書きではなく、機械的に正確に読み取れそうなものか、実際、どのように提出されているのか。

（事務局）

○　紙の財務諸表を読み取って電子情報化するのは、最後は予算の問題となる。他方、手書きはほぼなく、電子的に作成したものを印刷して提出している。また、毎年、経営報告書等の様々な提出書類があり、財務諸表もその一環として提出されているものである。

（構成員）

○　財務諸表は、業者によって勘定項目等の項目が揃っていないということはないのか。

（事務局）

○　建設業法の省令により財務諸表の様式は決まっており、記載項目も統一されている。例えば、完成工事原価等の項目がある。

（構成員）

○　それらをいくつか試験的に電子化して分析するのは、割合早い段階で可能ではないか。今の提案は良いアイデアだと思う。

以上